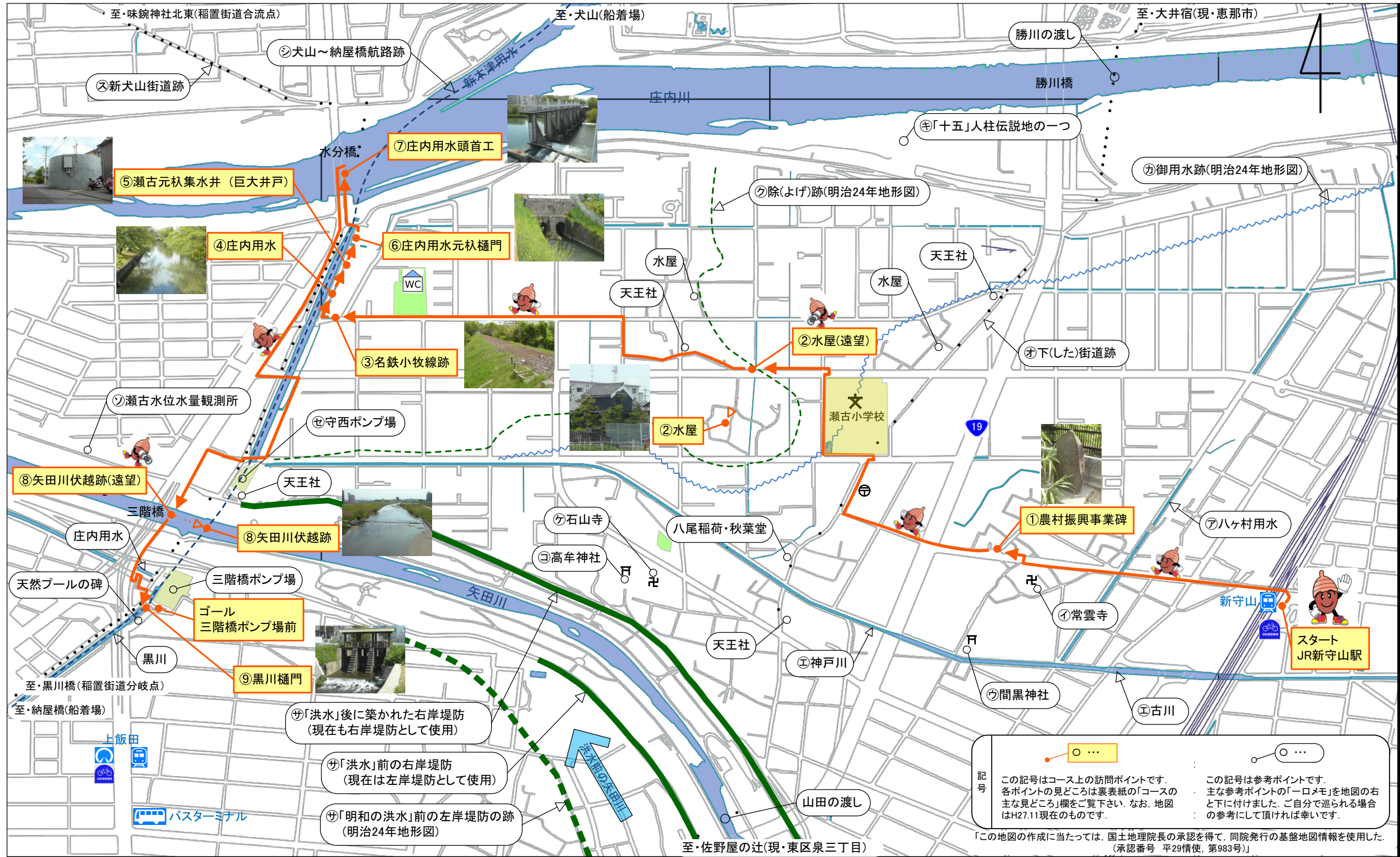
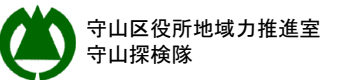




守山探検隊まちあるきマップ

瀬古西コース

明治の産業遺産と水屋を訪ねて(3.7km)



【参考ポイント・ロメモ】

⑦ハケ村用水

明治9年(1876)に建設されました。川・牛牧・大森垣外・大永寺・金屋坊・守山・幸心・瀬古のハケ村を灌漑しました。(由来碑)

①常雲寺

曹洞宗。江戸時代の村絵図にも描かれている立派な庚申堂があり、幸心の地名の由来といわれています。(守山市史)

⑦間黒(まぐろ)神社

輪中地帯で「助命壇」「命塚」といわれる高さ3mもの巨大な台に社が祀られています(小5・社会)。戦争中B29が墜落した跡を残す欄干が保管されています。

①古川／神戸川

江戸時代は「山下ハケ村悪水通り」と呼ばれていました。今は国道19号より上流は古川、下流は神戸川と呼んでいます。(村絵図他)

④下(した)街道跡

江戸時代、庶民の旅に利用されました。城下の人からみると「善光寺道」、信州の人からみると「伊勢道」でした。善光寺まで8日間の旅でした。

⑦御用水跡

川村で取水して、名古屋城外堀まで送る水路でした。矢田川や他の用水路とは伏越や掛樋を用いて立体交差していました。(御深井御用水江絵全図)

⑤「十五」人柱伝説地の一つ

松戸河の観音寺には人柱となった15才の娘の位牌などが残されていますが、瀬古の伝説地は区画整理等のため今は何も残っていません。

この記号はコース上の訪問ポイントです。各ポイントの見どころは裏表紙の「コースの主な見どころ」欄をご覧ください。なお、地図はH27.11現在のものです。

「この地図の作成に当たっては、国土地理院長の承認を得て、同院発行の基盤地図情報を使用しました。(承認番号 平29情使、第983号)」

- ②瀬古水位観測所

矢田川の水位を監視し、大雨の時、住民に「氾濫注意/警戒/危険/発生」等の情報を出すための重要な観測施設です。(庄内川河川事務所)
- ⑤守西ポンプ場

雨水の自然排水ができない瀬古、幸心地区は、ポンプで雨水くみ上げて矢田川に排出します。内水氾濫を防ぐ重要な施設です。(上下水道局)
- ②新犬山街道跡

江戸時代、犬山へ行くには稲置街道が利用されましたが、明治12(1879)黒川岸の道と水分橋ができて便利になり「新犬山街道」と呼ばれ利用されました
- ②犬山～納屋橋航路

明治19年(1886)～大正13年(1924)の間、犬山～納屋橋間で運航されました。それまで7日間かかった荷物輸送が4時間に短縮されました。
- ④「明和の洪水」

江戸時代(1767.8.4～6)に発生した大洪水です。長母寺と宝勝寺の間で「山抜ケ」が発生し、長母寺の西を流れていた矢田川が現在の東に変わりました。
- ③高牟(たかむ)神社

延喜式神名帳にも載る由緒ある神社です。社伝では奈良時代(717)の創建です。天神橋の由来となった菅原道真の絵がありました。(守山市史他)
- ⑦石山寺

天台宗。鎌倉時代の開基。本尊の観音像は近江石山寺の観音像と同木と言われ、このため石山寺と呼ぶようになったと伝えられています。(守山市史他)
- ⑦除(よげ)跡

尾張藩は小堤の事を除(よげ)とよんでいました。低地の瀬古村では庄内川や矢田川、悪水通りの氾濫に備え、集落の周りに「除」を築きました。(徇行記他)

